経営比較分析表／団体全体（令和5年度決算）

兵庫県　尼崎市

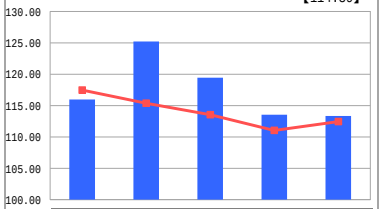
【事業概要】

業務名	業種名	現在配水能力(合計)(㎥/日)	類似団体区分	施設数	１日平均配水量(㎥)
法適用	工業用水道事業	170,000	中規模	1	61,197
資金不足比率(%)	**自己資本構成比率(%)**	**給水先事業所数**	**契約水量(㎥/日)**	**管理者の情報**	
-	94.2	53	130,363	自治体職員	

グラフ凡例
- ■ 当該団体値（当該値）
- ー 類似団体平均値（平均値）
- 【】 令和5年度全国平均

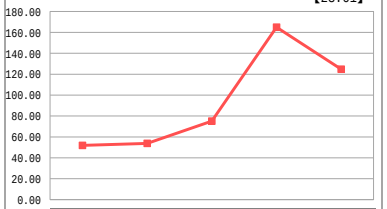
1．経営の健全性・効率性

①経常収支比率(%)　【114.39】



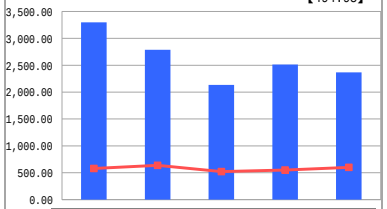
	R01	R02	R03	R04	R05
当該値	115.96	125.22	119.44	113.55	113.33
平均値	117.47	115.38	113.53	111.03	112.45

②累積欠損金比率(%)　【23.61】



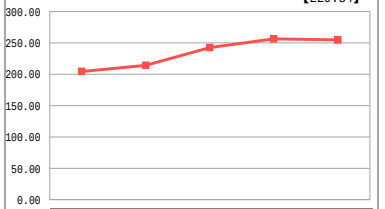
	R01	R02	R03	R04	R05
当該値	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
平均値	51.91	53.86	75.17	164.95	124.74

③流動比率(%)　【494.95】



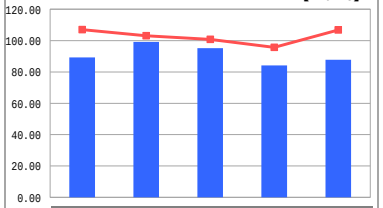
	R01	R02	R03	R04	R05
当該値	3,299.21	2,788.35	2,135.38	2,512.36	2,366.84
平均値	578.19	638.35	521.36	549.67	599.10

④企業債残高対給水収益比率(%)　【229.84】



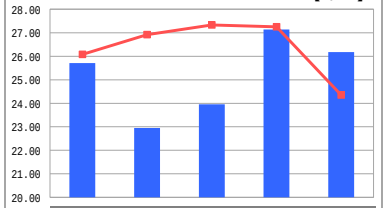
	R01	R02	R03	R04	R05
当該値	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
平均値	204.31	214.20	242.32	256.40	254.62

⑤料金回収率(%)　【110.13】



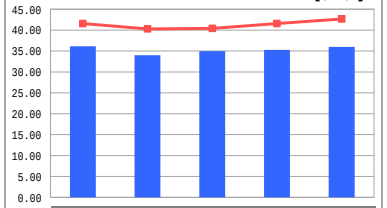
	R01	R02	R03	R04	R05
当該値	89.26	99.13	95.20	84.15	87.71
平均値	106.98	103.06	100.74	95.67	106.76

⑥給水原価(円)　【19.72】



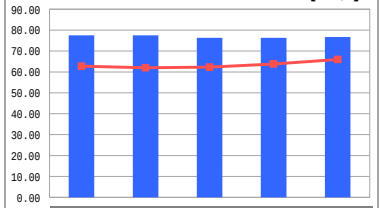
	R01	R02	R03	R04	R05
当該値	25.71	22.95	23.96	27.14	26.18
平均値	26.08	26.92	27.33	27.25	24.35

⑦施設利用率(%)　【52.61】



	R01	R02	R03	R04	R05
当該値	36.15	33.99	34.98	35.29	36.00
平均値	41.59	40.29	40.41	41.58	42.67

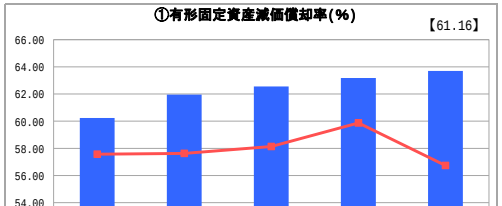
⑧契約率(%)　【77.52】



	R01	R02	R03	R04	R05
当該値	77.51	77.51	76.33	76.33	76.68
平均値	62.75	61.99	62.26	63.81	65.94

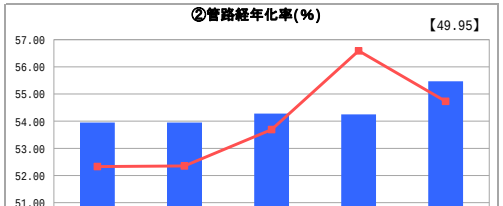
2．老朽化の状況

①有形固定資産減価償却率(%)　【61.16】



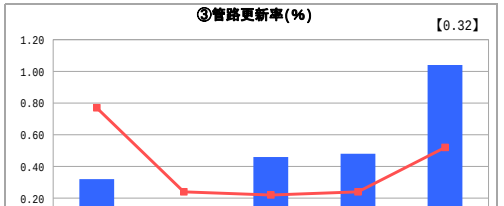
	R01	R02	R03	R04	R05
当該値	60.24	61.96	62.56	63.18	63.70
平均値	57.57	57.63	58.13	59.87	56.74

②管路経年化率(%)　【49.95】



	R01	R02	R03	R04	R05
当該値	53.95	53.95	54.28	54.25	55.47
平均値	52.33	52.35	53.69	56.59	54.73

③管路更新率(%)　【0.32】



	R01	R02	R03	R04	R05
当該値	0.32	0.00	0.46	0.48	1.04
平均値	0.77	0.24	0.22	0.24	0.52

分析欄

1．経営の健全性・効率性について

①経常収支比率
　前年度に比べてわずかに低くなったものの、平均値よりも高く、指標が100%を上回っていることから、単年度収支は黒字を維持できている。
②累積欠損金比率・③流動比率
　０%を維持しており累積欠損金が発生しておらず、③流動比率は、平均値よりも高く、100%以上を上回っていることから、財政的に安定した状態を維持できている。
④企業債残高対給水収益比率
　平均値よりも低い水準であり、今後の事業費を見通したうえで借り入れを行っておらず、適切な状態を維持している。
⑥給水原価
　平均値よりも高い水準となっているが、経常費用の減により、前年度に比べて減少している。
⑤料金回収率
　平均値よりも低い水準となっているが、⑥給水原価の減により、前年度に比べて増加している。
⑦施設利用率
　ユーザー企業の水需要の減少などにより、配水量と施設能力との乖離が生じており、平均値よりも低い水準となっている。
⑧契約率
　前年度に比べてわずかに増加し、平均値よりも高い水準であるが、今後の需要増の見込みは低く、契約率の減少が続くことが見込まれる。

2．老朽化の状況について

①有形固定資産減価償却率・②管路経年化率
　類似団体平均値よりも比較的高い水準となっている。高度経済成長期に整備した施設が更新時期を迎えていることが要因である。事業費の平準化を図るため、施設の実際の耐用年数を見極め、計画的かつ効率的な更新に取り組んでいる。
③管路更新率
　各年度で更新率にばらつきはあるものの、平均値と比べ比較的高い水準であり、今後も計画的に経年化した管路の更新を行っていく。

全体総括

　近年、ユーザ企業数は横ばいで推移しているものの、新たなユーザーが見込みにくい状況下で、物価高騰の影響等により、今後の経営環境はより一層厳しさを増すものと考えられる。
　このような状況を踏まえて策定した「あますいビジョン2029」（2020～2029年）における事業運営の指針に基づき、施設の耐震化・老朽化対策を着実に実施するとともに、経営環境の変化を踏まえ、安定的に事業運営できるよう、事業基盤の強化に取り組む。